

2024年4月30日

ワシントン DC ポトマック河畔の桜は日米友好の象徴の一つになっている。岸田総理の米国公式訪問の際にも、米国が2026年に建国250周年を迎えることを踏まえて250本の桜の寄贈が発表された。シカゴ郊外の公邸の桜も咲き、お客様には桜を鑑賞した後で、西村料理人が4月期間限定として用意した「サクラ・ジェリー」と「サクラ練り切り」を楽しんで頂いた。



公邸の庭の桜



4月期間限定「桜のデザート」

## 1 岸田文雄総理の米国公式訪問

岸田文雄総理が国賓待遇で米国を公式訪問。4月10日に日米首脳会談とステート・ディナーが行われ、翌11日には議会上院下院の合同会議にて演説を行った。日本の総理としては故安倍総理以来、9年振りのことである。近年、地政学的挑戦に直面し、日本は防衛外交努力を強化している。かかる背景の中での岸田文雄総理の米国公式訪問は、「法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序」を維持・強化すべく日米がグローバル・パートナーとして一致団結していることを示す機会となった。

岸田総理訪米が1月下旬に発表されて以来、私も、中西部10州内の出張も含めて、総理訪米とその意義について語る機会が多々あった。4月に入ってから、米日財団とシカゴ・グローバル評議会との共催円卓会合（4日）、シカゴ経済倶楽部との会合（8日）、イリノイ州議会演説（10日）、サウスダコタでの経済関連会合（11日）、カンザス大学における講義（17日）、カルコン（日米文化教育交流会議）と地元のDePaul大学との共催会合（19日）、シカゴ日米協会（23日）などだ。

中西部で様々な背景の人々にお会いするたびに、長年にわたり営まれてきた日米同盟に対する超党派の強い支持に常に勇気付けられる。同時に、「グローバルパートナーシップ」と日米同盟の基礎には、両国民を結びつける友好信頼の絆があること、そして、その絆は幾層にも重なる人的交流と社会の各団体とビジネスパートナーシップにより長年にわたり築かれてきたことを痛感する。中西部管轄10州には3万5千人の日本人が良き地元住民の一員として暮らしている。70以上の姉妹都市関係が築かれている。日本は4年連続で対米直接投資第一の国であり、日本企業は約8000億ドルを投資し、全米で100万人近く（半分が製造業）の雇用を生み出している。特に中西部管轄10州では、1500の日系企業が15万人の雇用を生み出し、地域経済・雇用と地域社会に貢献している。

さらに気付くのは、経済ビジネス関係と文化・人的交流が「車の両輪」であり、経済ビジネス関係の進展が文化・人的交流・姉妹都市関係などを促進し、そして文化・人的交流・日本語学習の促進などがさらなる投資やビジネス関係を生み出す「好循環」が見られることだ。

これら全てが、強固な日米グローバルパートナーシップの基礎と言える



カルコン×大学の会合



米日財団などによる円卓会合

## 2 リンカーンの地、スプリングフィールドで議会演説

シカゴから車で3時間、イリノイ州都であり、リンカーンが暮らした街スプリングフィールド。リンカーンの家や墓も残され、多くの人が訪れている。私も、空き時間に訪れてみた。家の内装の多くは当時のオリジナルを使用。墓は、リンカーンの彫刻と共にモニュメントの下に静かに眠っていた。

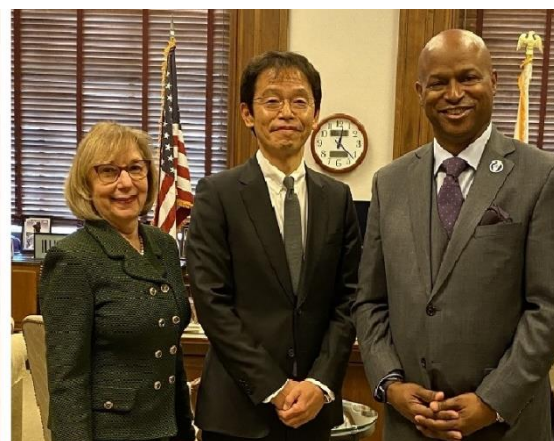


そのスプリングフィールドで、岸田総理訪米のタイミングにあわせて4月10日、州下院議会での演説の機会を頂いた。演説後には、長い列ができて多くの議員と記念撮影に収まった。演説では、シカゴ・カブスのセイヤ・スズキとショウタ・イマナガに言及した際に議場から拍手が起き中断。演説後に議長から「日本人選手がさらにカブスに加わることを歓迎する」との発言があり、日本人「ベースボール」プレイヤーの存在感を再確認した。演説前後に、下院議長、多数党（民主党）院内総務、少数党（共和党）指導部と個別に意見交換した。

夕刻、近隣のホテルで、岸田総理の米国公式訪問を記念して、日本食と日本酒のレセプションを主催した。初めての試みであり、私の下院議会演説を傍聴していない上院議員、そして、シカゴの総領事館や公邸ではアウトリーチが難しいイリノイ州南部を選挙区とする州議員との接点を持つことができた。議会演説とあわせて、これまで関係構築を行ってきた州議会議員との関係を確認・強化すると同時に、新たな人脈を広げる機会となった。



下院議会での演説



下院議長と



下院共和党指導部と



レセプション出席議員と

### 3 日米「ベースボール」交流

7日（日）、日系人と日本人とのグループでシカゴ・カブス対ロサンゼルス・ドジャース戦を観戦した。今永昇太投手は、大谷翔平選手を三振と三邪飛に打ち取り、4回まで無失点に抑えたが、強雨による長時間中断後に交代し、勝ち投手の権利を逃した。鈴木誠也選手も好調な滑り出しで、この日も犠牲フライで打点を挙げた。日本人選手が目覚ましい活躍に、カブス関係者と米国のファンは大喜びだ。日本人選手は、日本の存在感を高め、米国人の日本人に対する好感度と親近感の向上に大いに貢献している。日本人はもちろんのこと、日系人の多くも、日本人選手の活躍と人気を、嬉しく、誇りに思っている様子だ。



雨の中、みんなで観戦



『Baseball Behind Barbed Wire』

6日、米日財団のイベントの後の夕食会の際に、映画『*Diamond Diplomacy*』について、製作者の方からお話を伺った。分断する国際社会の中で、スポーツは往々にして共通の土俵を提供してきている。米国の「ベースボール」は、いかにして日本に「野球」として根付いたか。米国のベースボールは、いかにして日米間の共通の土俵となったか。日米ベースボール交流は150年強の歴史があり、1910年から1936年までシカゴ大学の野球チームは5年毎に訪日し早稲田大学と対戦したと聞く。米国に赴任してベースボールを観戦して、初めて、日本の野球用語が全て英語の直訳であることにも気付いた。

米日財団でのイベントの中では、『*Baseball Behind Barbed Wire*』が上映された。第二次世界大戦の最中に各地に強制収容させられた日系米国人にとって、米国生まれの「ベースボール」をすることが、強制収容所生活の中で正気を保つ一つの術であったという。野球を通じて当時の日系人の置かれた環境と生活と思いを語る短編ドキュメンタリー映画だ。

#### 4 サウスダコタ州、カンザス州、インディアナ州出張

4月11日、サウスダコタ州に初めて出張し、最大都市スーフォールズで開催された「経済開発に関する知事の会議」に出席した。ノーム知事は、経済開発に貢献のあった州民を表彰する「顕彰ランチョン」に登場。知事は、同州初の女性知事で、保守的なスタンスで小さな政府を目指し、「Freedom works here」をスローガンに掲げている。カリスマ性と多大な人気が看守された。トランプ大統領再誕生の場合には副大統領候補の1人と目されており、大統領選挙で忙しくしていると聞く。そのノーム知事が仮に任期途中で知事職を辞した場合に昇格するのがローデン副知事。副知事は、6月下旬に経済ミッションを率いて日本と台湾を訪問予定で、その関連セッションに私も副知事と共に参加した。

4月17日、カンザス出張。カンザス大学で講演機会を頂いた後で、JETRO投資ミッションに対するケリー知事主催歓迎レセプションで挨拶をさせて頂いた。郊外の公邸でレセプションを主催し、日系企業の参加者一人一人に丁寧な真摯に向き合う知事の姿勢に、日本からの投資に対する感謝と評価と期待を感じた。

4月20日、インディアナ日本人会総会に出席。情報連絡伝達機能、商工会機能、日本語学校支援などの日本人会の役割に感謝したい。ニューヨークからのゲスト植村花菜さんのライブでは、「トイレの神様」の熱唱に会場が湧いた。

カンザスとインディアナでは、日系企業の方々に対して、良好な日米関係の礎となる信頼関係を築いてこられてきた尽力に改めて感謝と敬意を表するとともに、日本経済の成長力強化と再生の観点からも、海外ビジネス投資をしっかりと応援していくとの日本政府のメッセージをお伝えした。



カンザス州のケリー知事と



知事公邸前でミッション一行と